各　　位

2023年7月18日

会社名　株式会社トレジャー・ファクトリー
代表者名　代表取締役社長　野坂　英吾
（コード番号：3093 東証プライム）
問合せ先　取締役経営企画室長　小林　英治
（TEL.　03-3880-8822）

2024年２月期 第１四半期決算　質疑応答集
（2023/7/18更新）

この質疑応答集は、2023年7月12日に発表した2024年２月期第１四半期決算に対する想定される質問及び投資家の皆様からの問い合わせとその回答の抜粋をまとめたものです。ご理解いただきやすいよう、一部内容の加筆・修正を行っています。

４月に公表済みの質疑応答集：4月12日公表、5月9日公表

Q｜第１四半期は、単体既存店が前期比11.7％増と堅調だったがその要因は？

単体既存店は、販売件数で前年同期比６％増、1件当たり販売単価同5.4％増と、件数と単価をバランスよく伸ばすことができた。件数の伸びの要因としては、サステナビリティ意識などの高まりやインフレ・物価高を背景にしたリユース品への強いニーズを取り込み、来店数が継続的に増加していること、単価上昇の要因としては、主力の衣類や生活家電などでインフレも背景に単価が上昇し、加えてハイブランド業態を中心にインバウンド売上が回復し、高単価品の販売が伸びたことがあります。

Q｜第１四半期は、連結で仕入が前年同期比34％増、販売が同23.5％増となったが、仕入好調の要因は？また、仕入と販売のバランスはどうか？

単体では、主力チャネルの店頭買取が前年同期比27.8％増と堅調に伸びた。各ジャンルをバランスよく伸ばすことで買取を持続的に伸ばすことができている。また、主に大型の家電や家具を買い取る出張買取や全国から宅配便を使って買取を行う宅配買取も30％前後の伸びとなっており、店舗以外の仕入チャネルも伸びていることが仕入の増加につながっている。
仕入の伸びが販売を上回っていることは、２Q以降の販売商品の確保、新店在庫の確保という点でもプラスと捉えている。

Q｜2024年２月期中間業績予想は上方修正したが、通期業績予想を据え置いた理由は？

7月12日に上方修正した中間業績予想では、単体既存店については、2Q（6－8月）全体では均して7%増（6月は実績ベースで前期比8%増、それを受け7月は8%増、8月は5%増と想定）とし、売上総利益率は、2Q（6－8月）は、１Q実績を踏まえ前期比0.6％低下に修正している。
３Q以降についても、リユースへの需要は持続すると見ており、現時点でなにか事業にネガティブな要素を見込んでいることはないが、単体既存店の成長見通しの具体的な設定が現時点では難しいため、第１四半期決算発表時点では、通期業績予想の見直しは行わず、今後の業績の進捗に応じて、適宜予想の修正を検討することとしている。
また、第１四半期決算発表時点では、中間業績予想を修正し、通期業績予想を据え置いたが、下半期業績について期首予想時の計画から減益となることを見込んでいることはない。